

テーマ1 『本校に期待され、求められているもの、その果たすべき役割』

◆「高校生」の期待や求めているもの

- 1 青春の1ページとしての充実した高校生活 友人、授業、クラブ、生徒会、学級、行事
- 2 自分の進路を見つけ、その実現をはかる 適切な進路指導、受験学力
- 3 生きる力を身につける 基礎学力、幅広い教養、社会的見識

(参考) 「生きる力を求め、地域を担わんと、ここに学ぶ」 茅野高校の記念碑碑文

◆「父母」の期待や求めるもの

- 1 自分の進路を見つけ、その実現をはかる
- 2 生きる力を身につける
- 3 (青春の1ページとしての充実した高校生活)

◆「地域」の期待や求めるもの

- 1 大学進学率やブランド大学への進学率を高める
- 2 創造性豊かで有能な人材の育成
- 3 次代を背負う、主体的な地域の担い手の育成
- 4 (地域の生涯学習の拠点としての役割 施設利用、支援事業)

テーマ2 『自立を促し、たくましく生きる力を育むには』

- 1 自分の進路や身に付けたいキャリアについて、じっくり考えさせる
高校卒業は同時に「巣立ち」であることの自覚できるように
- 2 主体的に、充実した高校生活をおくることが、たくましく生きる力を育む
- 3 16～18歳の時期に、目的をもって全力で取り組んだ経験を持つこと
クラブ・生徒会活動、学習、受験、趣味・特技など
- 4 社会的体験の機会を持つ 環境・福祉などのボランティア活動への参加
職場見学や勤労体験(職場と連携して)

[付言]

地元区長として、〇〇高校の平成14年度の学校評議員に委嘱された。評議員連絡会の討議テーマとして、上記の二つが事前に提示された。そこで、これに対する私見をまとめたものである。〇〇高校というより、高等学校すべてに共通する意見である。

『テーマ1』に関しては、社会で学校教育に対する論議にのぼる見解を「地域」の1、2としてまとめてみた。東京の政治家や文部省になると「国を・・・」とか、「グローバル・・・」などということが論議される。しかし、教員としての経験から、向き合ってきた生徒たちや父母の期待や求めるものはなにかという視点でまとめたのが「高校生」「父母」である。まとめてみて、両者(社会と生徒・父母)の間には大きな乖離があることに改めて気づかされた。この乖離にこそ、教育論議の本質的なものがあると思う。

『テーマ2』に関しては、しばらく学校教育を離れていたが改めて教育ということを考え直し、今まで考えてきたことを経験的にまとめてみたものである。

教育論議や教育改革が方向性のないままに右往左往するとき、その犠牲者は生徒や教員であることを痛切に感ずるこの頃である。

以上